第 27 回　全十勝小中学校かべ新聞コンクール　小学校部門　講評

北海道十勝新聞教育研究会
事業部長　森田　昌宏（豊頃町立豊頃小学校）

今年度の小中学校かべ新聞コンクールは小学校１１校から４３点の出品がありました。小学校は出品数が減少傾向にありますが、取材や調査をしてそのことを記事にしている作品が多く、説得力のある新聞になりました。また、仲間と協力して楽しく取り組んでいる様子がうかがえました。

今年も、素敵な作品が多くみられました。特にそれぞれの学年の最優秀賞はとても読みやすく目を引く作品となりました。２年生の「あいこく新聞」は、素敵な色づかいと大きく丁寧な文字でとても見やすい新聞でした。３年生の「十勝のひみつのすごさ」はとても情報量が多く、しっかりと調べて一生懸命にまとめていった様子が伝わってきました。４年生の「浦幌の魅力」は、情報量の多さに加えて、レイアウトもすっきりとしていました。５年生の「PAN　LOVE 新聞」は、個人で作っていて、自分で調査したことや体験、経験に基づくこと、アンケート調査など取材方法が多岐にわたっており、読み応えのある新聞になりました。６年生の「世界防衛新聞」は、多彩な色づかいや様々な情報、イラストなど、ワクワクしながら読んでみたいと思わせてくれるとても素敵な作品になりました。

全体を通して次の２点に気を付けるともっといい新聞になります。

１点目は、見出しの工夫です。

新聞は「見出し」「リード」「本文」で３回読ませるといいます。読者は、見出しから何が書いてあるのかを知り、読んでみたいなと関心を持ちます。「そのままの見出し」ではなく、「記事で伝えたいことが一目見れば分かる」「思いが伝わる」見出しにすることが大切です。また、目立つ見出しになっているかも大切です。少し遠くから眺めて、字の太さや色づかいを確認してみましょう。

２点目は、

枠線や罫線のひき方です。枠線や罫線があることで、紙面が引き締まり、とても読みやすい、新聞になります。逆に罫線がないと、紙面にメリハリがなくなり、のっぺりとした印象になってしまいます。完成したときにもう一度罫線が引かれているか確認してみるといいでしょう。また、罫線は文字と文字の間ではなく、一文字分つかって引くようにしましょう。

新聞を作ることで、取材などを通し「必要な情報を集める力」、決められた文字数の記事を書くことで、「文章で表現する力」がつきます。また、「新聞づくりは仲間づくり」とも言われているように、話し合ったり役割分担したりすることで「協力する力」もついていきます。

多くの時間をかけて新聞を作った児童の皆様、指導されました先生方に敬意を表します。また、作成を支えてくださった保護者の皆様に感謝申し上げます。来年もたくさんの楽しい新聞が出品されることを願っています。